

令和7年度アクションプラン 事業評価シート【行政改革推進委員会審査用】

1 基本情報

1 基本情報				担 当 課 脱炭素まちづくり推進課								
事 業 名	No.1		地域脱炭素移行・再エネ推進事業									
事 業 区 分	継続	会 計 区 分	一般会計	予 算 費 目	款	4	項	1	目	5		
施 策 体 系	11	脱炭素・循環型社会				戦 略 的 施 策	☒	行 政 改 革 大 綱		(1)(4)		
根 拠 法 令 等	二酸化炭素排出抑制対策事業費交付金(地域脱炭素移行・再エネ推進交付金)交付要綱							事 務 区 分	自治事務			
事 業 期 間	☐ 単年度(年度) ☐ 単年度繰返(年度～継続) ☒ 複数年年度(R5 年度～ R9 年度)											

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	脱炭素先行地域を対象とする施策を展開することで、既存住宅地を脱炭素化するモデル地区を創出し、市内外への波及を目指す。				
事業概要 (全体計画)	太陽光発電、蓄電池等の設備導入を行い、いこま市民パワー(株)を核とするエネルギーの地産地消を促進するとともに、地域コミュニティの活性化を通じた既存住宅地の脱炭素化を目指す。				
事業の対象	公共施設、自治会集会所、公募により選定した自治会等 (対象数: 163施設、2地区)				
決算年度の 取組	取組計画		取組実績(見込)		
	・太陽光発電設備、蓄電池の設置 150,755千円 ・先行地域の追加検討		・太陽光発電設備、蓄電池の設置 114,634千円 公共施設 太陽光:2件 戸建住宅 太陽光:34件、蓄電池:45件 ・先行地域の追加 令和7年10月～令和8年1月 モデル自治会の公募 1～2月 応募自治会への個別ヒアリング モデル自治会候補の選定 3月～ 環境省との協議		
	事業実施手法 ☐ 直接実施 ☐ 委託・指定管理 ☒ 負担金・補助金 ☐ その他 ()				

3 事業費・財源内訳

	R6決算	R7予算現額	R7決算(見込)	R8予算
事業費(千円)	127,902	150,755	114,634	495,674
12委託料				
14工事請負費				
18負担金補助及び交付金	127,902	150,755	114,634	495,674
その他				
財源(千円)	127,902	150,755	114,634	495,674
特定財源	127,902	150,755	114,634	495,674
市債				
その他				
一般財源				

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)		公共施設は、2施設・283.8kWの太陽光発電設備を、戸建住宅は、34件・164.3kWの太陽光発電設備と45件・401.1kWhの蓄電池を導入した。	
KPI		指標1	
	指標名(単位)	脱炭素先行地域内における新規太陽光発電設備の設置容量累計(kW)	
	目標値	1,836	
	実績値	1,314	
	目標値と実績値の差分についての理由	公共施設への太陽光発電設備の設置について、屋上防水シートの老朽化や施設の構造上の課題等から当初予定より設置できる施設数及び容量が減少したため。	
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)			
コスト意識 (費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由	
	B	太陽光発電設備及び蓄電池の設置にかかる費用は、国補助金及び事業者・市民負担のため、市費の支出はなし。	
目的思考 (施策目標への寄与)	評価	評価した根拠・理由	
	B	地域コミュニティの活性化と市域の脱炭素化という目的の達成に向け、施設及び住生活エリアへの太陽光発電設備及び蓄電池の設置を進めている。	
多様な主体との協創 (市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	評価した根拠・理由	
	B	合同会社いこまサンライフや施工事業者など、民間活力を活用して取り組む事業である。	
デジタル・データ活用 (デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由	
	－	デジタルやデータを活用できる機会がないため。	
総合評価	評価	評価した根拠・理由	
	B	KPIは目標値を下回ったが、民間主導により太陽光発電設備及び蓄電池を導入する事業モデルと展開し実績をあげることができた。	
事業実施上の課題・残された課題		・計画全体を通じて導入できる太陽光発電設備容量は当初計画より減少する見込みであるが、計画期間において設置可能な施設については、確実に設備導入していくことが求められる。 ・戸建住宅向け事業は生駒市の事業モデルの根幹となるものであり、着実に進めていく必要がある。	
今後の取組方針	拡大	判断理由 事業計画に基づき、公共施設や民間施設等の施設群及び戸建住宅への太陽光発電設備及び蓄電池の設置を進めるとともに、民間主導によるEVカーシェア事業等の他の事業も並行して進めていく必要があるため。また、住生活エリア及び民間施設の追加を行い、取組を拡大していくため。	

令和7年度アクションプラン 事業評価シート【行政改革推進委員会審査用】

1 基本情報

1 基本情報				担 当 課				建築課			
事 業 名		NO.2		住宅の省エネ化の推進							
事 業 区 分		継続	会 計 区 分	一般会計	予 算 費 目 款		6	項	1	目	2
施 策 体 系		11	脱炭素・循環型社会			戦 略 的 施 策		☐	行 政 改 革 大 綱		(1)
根 拠 法 令 等		建築物の省エネルギー消費性能の向上等に関する法律							事 務 区 分		
事 業 期 間		☒ 単年度(令和7年度)		☒ 単年度繰返(年度～継続)		☐ 複数年度(年度～ 年度)					

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	ZEH水準等の省エネルギー住宅性能の確保を目指す脱炭素社会の実現				
事業概要 (全体計画)	2030年に予定されている新築住宅ZEH水準省エネ性能確保義務化の周知・普及を図るとともに既存住宅についても国の動向に応じた省エネ化を推進する。▶新たに創設された国の多種多様な支援制度への誘導▶動向に応じた本市支援策等の見直し				
	事業の対象	建築物所有者		(対象数:)	
決算年度の 取組	取組計画		取組実績(見込)		
	◇住宅の省エネ化推進目標 ▶新築住宅省エネ義務化 400件 (長期優良住宅 120件含む) (低炭素住宅 5件含む) ▶国の補助金への誘導		◇住宅の省エネ化推進実績(R.8.2月時点) ▶建築確認件数(省エネ義務化) 350件 (長期優良住宅の認定 216件含む) (低炭素住宅の認定 8件含む) ◇市内業者による国の省エネ改修補助の取得実績 2025年 約1000件(聞き取りで把握できたもののみ)		
	事業実施手法		☐ 直接実施 ☐ 委託・指定管理 ☒ 負担金・補助金 ☒ その他 ()		

3 事業費・財源内訳

	R6決算	R7予算現額	R7決算(見込)	R8予算
事業費(千円)	728	0	0	0
12委託料				
14工事請負費				
18負担金補助及び交付金				
その他	728			
財源(千円)	728	0	0	0
特定財源				
市債				
その他				
一般財源	728			

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)		省エネ化推進に向け、市民への周知、普及を図るとともに住宅省エネルギー技術講習会市内受講者リストの掲示、国の補助金への誘導などを行った。	
KPI		指標1	指標2
	指標名(単位)	住宅の省エネ化率	
	目標値	10.00%	
	実績値	10.2%(13.4%国補助を含む)	
	目標値と実績値の差分についての理由	長期優良住宅が目標件数を大幅に上回ったため、目標より0.2ポイント高い結果となった。また国の省エネ補助を含めると目標を大きく上回った。	
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)			
コスト意識 (費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由	
	B	本市の省エネ補助を廃止し、国の補助への誘導を行うことで経費削減を図った。	
目的思考 (施策目標への寄与)	評価	評価した根拠・理由	
	B	窓口やホームページで周知するとともに、長期等認定申請業務を迅速かつ適切に処理した。	
多様な主体との協創 (市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	評価した根拠・理由	
	B	国の省エネ補助利用実績を市内業者に聞き取り調査し、市民のニーズを把握した。	
デジタル・データ活用 (デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由	
	B	長期優良住宅等のオンライン申請を令和8年度運用に向けて準備を進めた。	
総合評価	評価	評価した根拠・理由	
	B	本市に申請される長期優良住宅などを迅速かつ適切に処理するとともに、国の補助金への誘導を積極的に進め、目標を大きく上回る成果が得られた。	
事業実施上の課題・残された課題		国の補助金への誘導について、継続的な効果が発揮できるよう継続した周知に取り組む必要がある。	
今後の取組方針	現状維持	判断理由	
		取り組み内容については、目標を上回る実績が出ているため概ね現状維持で問題はないと考える。	

令和7年度アクションプラン 事業評価シート【行政改革推進委員会審査用】

1 基本情報

1 基本情報				担 当 課 環境保全課							
事 業 名	No.3		エコパーク21長期包括運営業務委託更新等の実施								
事 業 区 分	継続	会 計 区 分	一般会計	予 算 費 目	款	4	項	2	目	5	
施 策 体 系	11	脱炭素・循環型社会				戦 略 的 施 策	☐	行 政 改 革 大 綱		(3)	
根 拠 法 令 等								事 務 区 分	自治事務		
事 業 期 間	☒ 単年度(7 年度) ☐ 単年度繰返(年度～継続) ☐ 複数年年度(年度～ 年度)										

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	令和8年度末までの10年間のエコパーク21長期包括運営業務委託契約を締結しており、次期契約を締結するため業務内容を整理し、次年度の公募型プロポーザルに繋げる。				
事業概要 (全体計画)	効率的で安定したエコパーク21の操業を実現するために、必要な工事内容や整備内容を整理し、実施する。				
	事業の対象	(対象数:)			
決算年度の 取組	取組計画		取組実績(見込)		
	・次期契約の業務内容を精査 ・債務負担行為の予算作成		・業務内容の精査を実施 ・債務負担行為(2,865,376千円)の設定		
	事業実施手法	☒ 直接実施	☒ 委託・指定管理	☐ 負担金・補助金	☐ その他 ()

3 事業費・財源内訳

	R6決算	R7予算現額	R7決算(見込)	R8予算
事業費(千円)	0	0	0	0
12委託料			0	
14工事請負費				
18負担金補助及び交付金				
その他				
財源(千円)	0	0	0	0
特定財源				
市債				
その他				
一般財源			0	

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)		次期長期包括運営業務のプラントメーカーの見積内容の確認、精査を行い、適切な業務内容への整理を実施した。	
KPI	指標1		指標2
	指標名(単位)		
	目標値		
	実績値		
	目標値と実績値の差分についての理由		
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)			
コスト意識 (費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由	
	B	令和6年度に実施したエコパーク21 施設整備検討業務の結果に基づき今後の運営内容を精査した。	
	評価	評価した根拠・理由	
	B	これまでの運営により今後も継続的に維持補修できる状況を踏まえて、大規模改修を行わない維持補修の運営を継続する内容とした。	
	評価	評価した根拠・理由	
	—	プラント設備について過去の補修履歴等を基に今後の整備計画の検討を行う事業であり、専門的な知識や経験が求められるため。	
	評価	評価した根拠・理由	
	—	プラント設備について過去の補修履歴等を基に今後の整備計画の検討を行う事業であり、デジタル技術を用いた手法が確立されていないため。	
	評価	評価した根拠・理由	
	B	エコパーク21は平成12年に竣工し経過年数が長くなっている中で、修繕力所は増えつつあるものの、現状の設備の維持補修により今後の10年間の運営を行う内容としている。	
事業実施上の課題・残された課題			
今後の取組方針	現状維持	判断理由	
		令和7年度の内容に基づき令和8年度に公募型プロポーザルで事業者の選定を行い、令和9年度の運営開始に繋げる。	

令和7年度アクションプラン 事業評価シート【行政改革推進委員会審査用】

1 基本情報

1 基本情報				担 当 課 清掃リレーセンター								
事業名	No.4		清掃リレーセンター更新計画に基づく更新工事の実施									
事業区分	継続	会計区分	一般会計	予算費目	款	4	項	2	目	3		
施策体系	11	脱炭素・循環型社会				戦略的施策	☐	行政改革大綱		(3)		
根拠法令等								事務区分	自治事務			
事業期間	☐ 単年度(年度) ☒ 単年度繰返(R6 年度～継続) ☐ 複数年(年度～ 年度)											

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	ごみ処理における中継処理施設として、施設の延命化及び安定したごみの持込対応を行う。				
事業概要 (全体計画)	清掃リレーセンター更新計画に基づく更新工事を実施し、中継施設としての延命化及び安定した持込対応を行う。				
	事業の対象	清掃リレーセンター			(対象数: 1)
決算年度の 取組	取組計画		取組実績(見込)		
	・R6年度の更新計画策定に基づき、清掃リレーセンターの設備ごとに、更新、補修の必要性や時期等を整理し、今後実施する整備内容を決定する		・R6年度の更新計画策定に基づき、R7年度は更新工事を実施した。また設備ごとの現状の劣化状況を確認し、R8～10年度における更新、補修の必要性や時期等を整理した。		
	・中央制御・中央監視盤補修 42,162千円		・中央制御・中央監視盤補修 39,215千円		
	事業実施手法	☐ 直接実施 ☒ 委託・指定管理 ☐ 負担金・補助金 ☐ その他 ()			

3 事業費・財源内訳

	R6決算	R7予算現額	R7決算(見込)	R8予算
事業費(千円)	3,465	42,162	39,215	69,146
12委託料	3,465			
14工事請負費				
18負担金補助及び交付金				
その他		42,162	39,215	69,146
財源(千円)	3,465	42,162	39,215	69,146
特定財源				
市債		31,600	26,000	
その他		10,562	13,215	
一般財源	3,465			69,146

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)		更新工事を実施したことで、施設の延命化及び安定したごみの持込対応ができた。	
KPI	指標1		指標2
	指標名(単位)		
	目標値		
	実績値		
	目標値と実績値の差分についての理由		
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)			
コスト意識 (費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由	
	B	更新工事の契約において、値段交渉を重ねたことから、当初予算より安価で契約できた。	
	評価	評価した根拠・理由	
	B	更新工事を実施したことで、施設の延命化及び安定したごみの持込対応ができた。	
	評価	評価した根拠・理由	
	—	R6年度に策定した更新計画は、プラント機器の耐用年数及び過去の補修履歴等を基に策定しており、この計画に基づく更新工事を実施することから、専門的な知識や経験が求められるため。	
	評価	評価した根拠・理由	
	—	R6年度に策定した更新計画は、プラント機器の耐用年数及び過去の補修履歴等を基に策定しており、この計画に基づく更新工事を実施することから、デジタル技術を用いた手法が確立されていないため。	
	評価	評価した根拠・理由	
	B	更新工事を実施したことで、施設の延命化及び安定したごみの持込対応ができた。	
事業実施上の課題・残された課題		清掃リレーセンターの設備ごとの劣化状況を把握し、更新、補修の必要性や時期等を整理する必要がある。	
今後の取組方針	現状維持	判断理由	
		令和21年度まで運営を継続する清掃センターに合わせて清掃リレーセンターの設備の劣化状況を反映した更新計画に基づき更新工事を実施する。	

令和7年度アクションプラン 事業評価シート【行政改革推進委員会審査用】

1 基本情報

1 基本情報				担 当 課 脱炭素まちづくり推進課								
事業名	No.5		いこまSDGsアクションネットワークの活性化									
事業区分	継続	会計区分	一般会計	予算費目	款	4	項	1	目	5		
施策体系	11	脱炭素・循環型社会				戦略的施策	☒	行政改革大綱		(4)		
根拠法令等								事務区分	自治事務			
事業期間	☐ 単年度(年度) ☒ 単年度繰返(令和3 年度～継続) ☐ 複数年(年度～ 年度)											

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	生駒市で活躍していただける企業・団体等が、それぞれの有する資源や知見等を活かし、地域課題の解決に向けて連携することで、SDGsの達成や持続可能なまちづくりを推進すること				
事業概要 (全体計画)	・ 連携事業のマッチング支援(会員交流会、セミナー、セクションミーティングほか) ・ 連携事例を継続的な取組として定着させるためのSDGs推進事業補助金及びいこまSDGsデリバリーの運用改善 ・ いこまSDGsアクションネットワークのホームページを改修し、情報発信を強化				
	事業の対象		(対象数:)		
決算年度の取組	取組計画		取組実績(見込)		
	・SDGs推進事業補助金 1,600千円 ・連携事業のマッチング支援(会員交流会、セミナー、セクションミーティングほか) 311千円 ・いこまSDGsデリバリー 30千円 ・会員紹介パンフレットの作成 88千円 ・くらしのブンカサイ 2,448千円 ・ホームページの改修 2,098千円		・SDGs推進事業補助金 592千円 ・連携事業のマッチング支援(会員交流会、セミナー、セクションミーティングほか) 100千円 ・いこまSDGsデリバリー 22千円 ・会員紹介パンフレットの作成 76千円 ・くらしのブンカサイ 113千円 ・ホームページの改修 1,059千円		
	事業実施手法		☒ 直接実施 ☐ 委託・指定管理 ☒ 負担金・補助金 ☐ その他 ()		

3 事業費・財源内訳

	R6決算	R7予算現額	R7決算(見込)	R8予算
事業費(千円)	3,250	6,575	1,962	7,350
12委託料	2,525	4,634	1,248	5,275
14工事請負費				
18負担金補助及び交付金	631	1,600	592	1,500
その他	94	341	122	575
財源(千円)	3,250	6,575	1,962	7,350
特定財源		2,328	613	2,590
市債				
その他				
一般財源	3,250	4,247	1,349	4,760

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)		アクションネットワークサイトのリニューアルにより会員情報や活動情報をわかりやすく整理した。くらしのブンカサイにおいて「らら♪まつり」と同時開催し、会員と市民活動団体との交流や新たな参加者にPRができた。	
KPI	指標1		
	指標名(単位)	SDGs推進事業補助件数(件)	
	目標値	5	
	実績値	2	
	目標値と実績値の差分についての理由	いこまSDGsアクションネットワーク会員同士のつながりが弱く、プロジェクトを生み出すに至っていない。またアイデアが出ても予定していなかった事業に対して半額負担するのは厳しいという声も複数あった。	
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)			
コスト意識 (費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由	
	A	市民活動推進センター実施のらら♪まつりと共同開催することによりイベント委託費を大幅削減できた。	
目的思考 (施策目標への寄与)	評価	評価した根拠・理由	
	C	HPをリニューアルし、SDGsのゴール毎に取り組む企業や取組をわかりやすく整理した。くらしのブンカサイにおいては、会員企業・団体にそれぞれのSDGsに関する取り組みのPRを意識して出展してもらうことができた。	
多様な主体との協創 (市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	評価した根拠・理由	
	B	くらしのブンカサイをらら♪まつりと共同開催することで、アクションネットワーク会員と市民団体で協力したイベント準備・運営ができた。	
デジタル・データ活用 (デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由	
	B	会員アンケート等はLogoformを積極的に活用することにより、しばらく動きのなかった会員からも回答を得ることができた。会員MLを作成し、情報共有の頻度を増やした。	
総合評価	評価	評価した根拠・理由	
	C	くらしのブンカサイをいこまSDGsアクションネットワークの活動に位置付けることでSDGs関連のイベントであることが明示できた。またらら♪まつりと共同開催するなどの新たな取り組みにより、今までとは違う層にSDGsの取組のPRができた。ホームページのリニューアルにより、会員企業等の情報を得やすくなった。	
事業実施上の課題・残された課題		民間企業・団体間の連携による取組も着実に実現し成果を上げてきているが、アクションネットワークを企業・団体主導による連携事例が継続的に創出・改善される場として運用していくためにはさらなる活性化を図る必要がある。	
今後の取組方針	現状維持	判断理由	
		新しい取り組みにおいては前向きに取り組む会員が一定数見られたことから、今後さらにアクションネットワーク会員同士がつながり連携事業が生み出せるよう、アクションネットワークの方向性の明確化と交流促進の取り組みを充実させる。	

令和7年度アクションプラン 事業評価シート【行政改革推進委員会審査用】

1 基本情報

1 基本情報				担 当 課 環境保全課								
事 業 名	No.6		生駒市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の中間見直し									
事 業 区 分	新規	会 計 区 分	一般会計	予 算 費 目	款	4	項	2	目	2		
施 策 体 系	11	脱炭素・循環型社会				戦 略 的 施 策	☐	行 政 改 革 大 綱		(4)		
根 拠 法 令 等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律							事 務 区 分	自治事務			
事 業 期 間	☒ 単年度(7 年度) ☐ 単年度繰返(年度～継続) ☐ 複数年度(年度～ 年度)											

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	計画策定後のごみ排出状況や社会情勢の変化、国の制度動向等を踏まえ、中間見直しを実施するもの。この見直しにより、さらなる5Rの取組を推進するとともに資源循環を通じて、まちの活性化や課題解決に貢献する計画を目指す。				
事業概要 (全体計画)	現状のごみ排出状況や課題の整理、施策や目標の見直しを行うとともに、パブリックコメントを実施し、市民意見を踏まえた中間見直しを行う。				
	事業の対象		生駒市民 (対象数:)		
決算年度の取組	取組計画		取組実績(見込)		
	・委託業者をプロポーザルで選定 6,588千円 ・懇話会の実施 192千円 ・環境審議会にて計画案を審議・決定 ・パブリックコメントの実施		・委託業者をプロポーザルで選定 6,564千円 ・懇話会の実施 138千円 ・環境審議会にて計画案を審議・決定 ・パブリックコメントの実施 ・ワークショップの実施		
	事業実施手法 ☐ 直接実施 ☒ 委託・指定管理 ☐ 負担金・補助金 ☒ その他 (懇話会謝礼)				

3 事業費・財源内訳

	R6決算	R7予算現額	R7決算(見込)	R8予算
事業費(千円)	0	6,780	6,702	0
12委託料		6,446	6,421	
14工事請負費				
18負担金補助及び交付金				
その他		334	281	
財源(千円)	0	6,780	6,702	0
特定財源				
市債				
その他				
一般財源		6,780	6,702	

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)		市民アンケート及び事業者アンケート、ワークショップを実施するとともに、懇話会及び環境審議会での意見を踏まえ、これまでの施策の評価や社会情勢の変化を反映し、計画の中間見直しを実施した。		
KPI	指標1		指標2	
	指標名(単位)			
	目標値			
	実績値			
	目標値と実績値の差分についての理由			
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)				
コスト意識 (費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由		
	B	アンケート調査の一部業務を職員で実施し、委託業務を見直すことで経費削減を図った。		
	評価	評価した根拠・理由		
	B	アンケートやワークショップ等の意見を踏まえ、5R推進を通じ資源循環や地域活性化につながる計画とした。		
	評価	評価した根拠・理由		
	B	市民・事業者アンケートや大人・子どもワークショップ、懇話会を通じ多様な主体の意見を計画に反映した。		
	評価	評価した根拠・理由		
	B	アンケートにLoGoフォームを活用した回答方法を導入し、回答しやすい環境を整えた。		
	評価	評価した根拠・理由		
	B	多様な主体の意見や社会情勢等を踏まえ、ごみ減量や資源循環の推進につながる計画の見直しができる。		
	事業実施上の課題・残された課題			
	今後の取組方針	拡大	判断理由	
			令和8年度からの5年間の計画に基づき、ごみ排出量削減目標の達成に向け、計画に位置付けた各施策を計画的に実施するとともに、市民・事業者と連携しながらごみ減量や資源循環の取組を推進する。	

令和7年度アクションプラン 事業評価シート【行政改革推進委員会審査用】

1 基本情報

担 当 課		環境保全課、清掃リレーセンター					
事業名	No.7	ごみの5Rと環境負荷の少ないまちづくり					
事業区分	継続	会計区分	一般会計	予算費目款	4	項	2
施策体系	11	脱炭素・循環型社会	戦略的施策	☒	行政改革大綱	(1)(4)	
根拠法令等						事務区分	自治事務
事業期間	☐ 単年度(年度) ☒ 単年度繰返(R5 年度～継続) ☐ 複数年(年度～ 年度)						

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	市民や企業と協力し、5Rの実践を推進することでごみの減量化と環境負荷の低減を図る。まちのえき等を活用したリユース市等での取組を通じて、地域の活性化や賑わいの創出につなげながら持続可能なまちの実現を図る。				
事業概要 (全体計画)	キエーロやフードドライブの推進、リユース市の開催、環境教育等を通じて市民の5R実践を促し、ごみの削減と資源循環を促進する。あわせて、まちのえきを活用した5Rの取組を推進する。				
	事業の対象	生駒市民			(対象数:)
決算年度の 取組	取組計画		取組実績(見込)		
	▶ まちのえきでのごみ減量活動の導入実施 ▶ キエーロモニター募集・作成講座 530千円 ▶ フードドライブの実施・拠点拡大 ▶ 対面型もったいない食器市拡大 3,466千円 ▶ こども5Rアドバイザー育成 ▶ 自治会等の出張型教育 ▶ 剪定枝のエネルギー資源活用の拡充 ▶ リユース品販売の販路拡大(まちのえき)		▶ まちのえきでのごみ減量活動の導入実施 ▶ キエーロモニター募集・作成講座 406千円 ▶ フードドライブの実施・拠点拡大 ▶ 対面型もったいない食器市拡大 2,764千円 ▶ こども5Rアドバイザー育成 ▶ 自治会等の出張型教育 ▶ 剪定枝のエネルギー資源活用の拡充 ▶ リユース品販売の販路拡大(まちのえき)		
	事業実施手法 ☒ 直接実施 ☒ 委託・指定管理 ☐ 負担金・補助金 ☐ その他 ()				

3 事業費・財源内訳

	R6決算	R7予算現額	R7決算(見込)	R8予算
事業費(千円)	3,783	3,996	3,170	3,726
12委託料	3,535	3,466	2,764	3,050
14工事請負費				
18負担金補助及び交付金				
その他	248	530	406	676
財源(千円)	3,783	3,996	3,170	3,726
特定財源				
市債				
その他				
一般財源	3,783	3,996	3,170	3,726

4 事業の成果・評価

事業の成果・計画		「めざす状態」実現に寄与したこと（事業の成果）		もったいない食器市の毎月開催や、まちのえきでのリユース市の実施により、食器等のリユース機会が拡大した。市民の5Rへの関心と実践機会が増え、ごみ減量と資源循環の推進につながった。	
KPI		指標1		指標2	
	指標名(単位)	イベント実施回数(回)			
	目標値	24			
	実績値	35			
	目標値と実績値の差分についての理由	もったいない食器市について、コープいこまでの毎月開催を実施したことにより開催回数が増加し、当初想定を上回る実施回数を確保できたため。			
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)					
コスト意識 (費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由			
	B	食器の拠点回収・選別業務の内容を見直し、作業の効率化や無駄の削減を図ることでコスト軽減につながった。			
	評価	評価した根拠・理由			
	B	事業活動で発生する剪定枝等の木質廃棄物について、民間の資源化施設と連携しバイオマスエネルギーとして活用することで、ごみ減量と資源の有効利用の推進につながった。			
	評価	評価した根拠・理由			
多様な主体との協創 (市民等への意見把握・民間活力等の活用)	B	まちのえきでリユース市を実施したことで、ごみとして排出されず再利用される機会が増え、ごみの減量につながった。			
	評価	評価した根拠・理由			
デジタル・データ活用 (デジタルの活用・EBPM)	B	資源・ごみ分別アプリ「さんあーる」を活用し、市民が正しく分別できるよう情報提供を行うことで、ごみの適正排出を促し、ごみ減量の推進に寄与した。			
	評価	評価した根拠・理由			
総合評価	B	5R推進の取組が継続的に実施され、リユースやフードドライブの取組が定着した。まちのえきを活用したリユース市の開催により、市民参加の機会が広がり、ごみ減量と資源循環の推進に寄与した。			
事業実施上の課題・残された課題					
今後の取組方針	拡大	判断理由			
		まちのえきを活用したリユース市など5R実践の取組を拡充するとともに、既存のごみ減量施策を継続的に実施し、市民・事業者と連携した資源循環の取組を推進していく。			